

公益財団法人軽井沢美術文化学院

平成 28 年度事業報告書

1. 美術館の運営（公益事業 1）

2016年6月11日（土）～11月6日（日）の間 ルヴァン美術館開館20周年記念展として“老成することを拒み、あたかも青春の如く時代を駆け抜けた西村3兄弟”を取り上げ 大正グラフィティ「西村伊作と二人の弟たち」をテーマとした企画展を開催した。

1) 企画展

〈第一室〉は序章として誕生からリビング中心の自宅の完成までを時代別に（誕生の地熊野・新宮）（父余平・叔父誠之助のもとで）（居間重視の家の誕生）（伊作の世界周遊の旅）に分けて油絵、写真パネルを中心に展示を行った。

油絵では西村伊作の「絵を描く自画像」他4点、世界周遊の際の鉛筆によるスケッチ3点、写真パネルでは1900年の新宮町市街の写真パネル、大石余平家族写真、洋装の伊作・眞子、大石誠之助ポートレート（佐藤春夫記念館蔵）太平洋食堂等の写真パネル17点、展示パネルでは熱心なプロテスタントであった伊作の父、母、及び自邸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの外観、室内、平面図等を展示した。

〈第二室〉は「芸術を友として」のテーマのもとに、（絵画 石井拍亭との交流）（陶芸 富本憲吉との交流）時代の作品を展示した。

絵画は石井拍亭の水彩、西村伊作の油絵など27点を、富本憲吉との交流コーナーでは西村伊作の陶器7点、富本憲吉作品1点を展示した。

また第二室の展示台では上記の他、西村光恵の著書「愛らしい子供服」「子供服の新しい型とその裁ち方」と「西村伊作一人展覧会目録」（日比谷美術館1913年）を展示した。

〈第三室〉は「教育や住宅の改革を目指して」「二人の弟たち 眞子・七分」のテーマで主として写真パネル、展示パネルでの展示を行った。

教育、建築関連では、展示パネルで「西村建築事務所」「建築作品の分布」「伊作建築写真」を展示し、教育関連では赤城泰舒作の木版画「文化学院前庭」西村伊作の書「真の自由は～」他パネル4点を展示した。

「二人の弟たち眞子ーマルコ 七分ースチーブン」のコーナーでは、機械の

申し子大石眞子、多彩な才能を発揮した大石七分の生涯をハイライトする写真を中心に展示を行った。

機械の申し子眞子については、1915-1920年に当時のオートバイの先端に行くハレーダビットソン、ヘンダーソンに跨る写真、眞子が大阪で設立した自動車部品輸入の会社アメリカ商会前での写真等、写真パネル17点を展示した。

多彩な才能を発揮した七分については、彼の絵画5点、設計した家屋の設計図5点とその家屋の写真パネル6点を展示した。

その他第三室の展示台には、文化学院関連の書籍、西村伊作の著書6点、七分設計の佐藤春夫邸平面図3点 佐藤春夫邸の写真パネル5点（いずれも佐藤春夫記念館蔵）を展示した。

入館者数はテーマが地味であったこともあり1658名で昨年度の志村ふくみ展の2,902名に比較すると大幅な減となった。

2) ローズフェスティバル

恒例の、バラとお茶の会「ローズフェスティバル」は6月18日から7月3日まで開催、パス発行部数16部(昨年は36部)入館者は160名(昨年度は222名)でした。期間中例年通りフラワーアレンジメント教室を開催した。

3) アートフェスティバル

春は4月29日より5月5日まで、地域の高校生以下の学生、児童の絵画、書、工作などの応募作品を展示した。

展示された作品を撮影し小冊子を作製して、応募された皆さんにお送りし大変好評でした。

期間中は入館料を無料とし、約208名(昨年は246名)の来館者がありカフェとショップの売り上げは約180千円で昨年より若干減少した。

秋は10月9日にスケッチ大会と体験教室を開催し、32名のスケッチ参加者には例年通りクレヨン、スケッチブックをプレゼントしております。

また、軽井沢中部小学校の吹奏楽部の皆さんには3年目となる演奏会を行ってもらい、来館者に大変喜んでもらった。この春、秋のアートフェスティバルは地元の小、中、高の学生と保護者の方々にすっかり定着して、毎年の楽しみとなっています。

新たな試みとして、今年は7月23,24日、8月5日より8日までスタッフの永島秀之君の指導による木工教室を開催し、20名の参加を得た。

4) サマーコンサート

以下のコンサートを開催して皆さんに楽しんでもらいました。

- ①近藤和花ピアノコンサート 8/7(日)
- ②ボサノバ/サパトス (木村純・三四郎) 8/13 (土)
- ③一噌幸弘/能管・笛 8/27 (土)
- ④ 酒井 はな/現代舞踊 9/18(日)

また当初予定にはありませんでしたが数々の国際コンクールお審査員を務めているパリ国立高等院教授イヴ・アンリ氏による“ショパンの夕べ in 軽井沢”コンサートに会場を提供しました

③④は軽井沢ペット福祉協会チャリティーコンサートとして売り上の一部を寄付しました。

2. 学生寮の運営 (公益事業 2)

文化学院のセミナーを中心に、延べ約 40 名(昨年 50 名)の学生、教職員および卒業生が宿泊しミーティングが開かれ約 190 千円の売り上げがあったが、人数売り上げともに、昨年の 260 千円より減少している。

文化学院の学生数の減少が要因です。

3. ショップ、カフェの運営 (収益事業)

ショップ売上は 917 千円で昨年度 2,940 千円から大幅な減少となった。昨年は志村ふくみ氏関連の売り上げが 1.661 千円がありましたが今年は目玉になるような商品がなかったことによります

一方カフェは来館者の減少にもかかわらず 2,744 千円で過去最高の入館者数であった昨年の 3,023 千円には及びませんでしたが一昨年の 2,469 円より 11%の増加でした。

美術館庭園の雰囲気、癒しの空間として来館者にアピールし、また、値段、味ともに評価された結果、リピーターが増加してきていることも売上に貢献しています。

4. その他の活動

他の団体への寄付

国の重要文化財に指定されている新宮の西村記念館については、「西村記念館を守り伝える会」に本年度も引き続き維持、保全のため5年目の十萬円の寄付をいたしました。また新たに同市が保全のために購入した西村伊作が建築したチャップマン邸についても、維持、保全のため昨年度に続き十萬円の寄付をいたしました。

5. 今後の設備投資

多目的ホールの建設

隣接地342坪の地借契約が6月に成立し駐車場としての使用が可能になった。整備のため樹木の伐採、土地の整備、柵など約2,500千円の投資を行い30台まで駐車出来る駐車場が完成した。これにより、夏場のピーク時の駐車混乱を解消し、今まで駐車場として使用していた土地に懸案の多目的ホールの建設が可能となり、具体化する作業を開始した。

以上